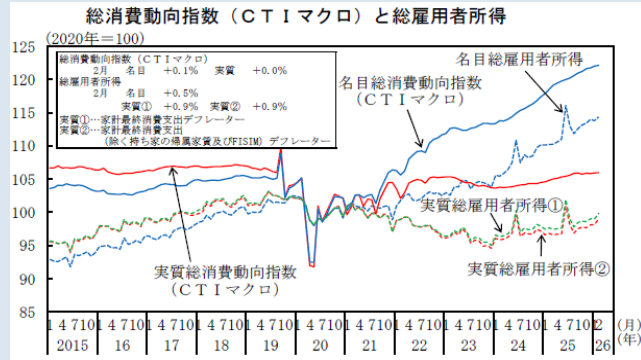


| 月例経済報告（2025年4月）

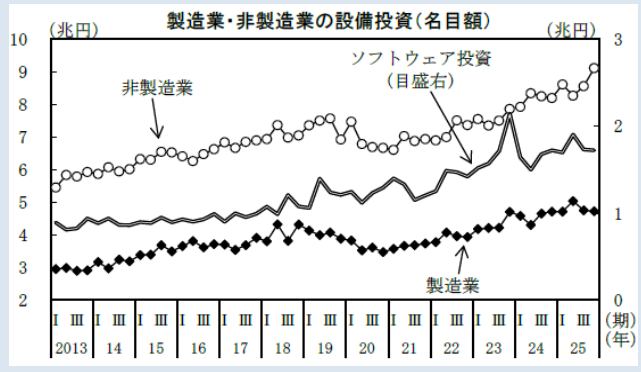
● 月例経済報告（4/23）

基調判断	(4月) 景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響や米国の通商政策をめぐる動向などに注意する必要がある。
	(3月) 景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響や米国の通商政策をめぐる動向などに注意する必要がある。

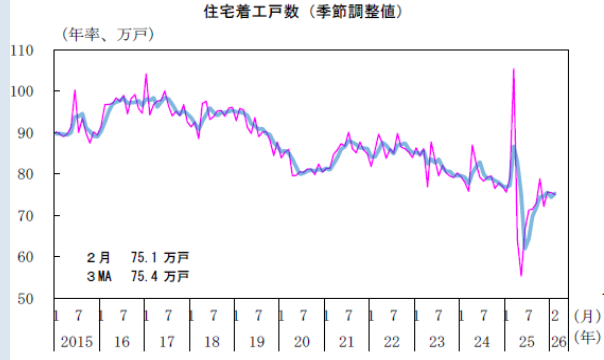
個人消費	(4月) 持ち直しの動きがみられる。 <u>ただし、消費者マインドがこのところ弱い動きと<u>なっていることに注意が必要である。</u></u>
	(3月) 持ち直しの動きがみられる。



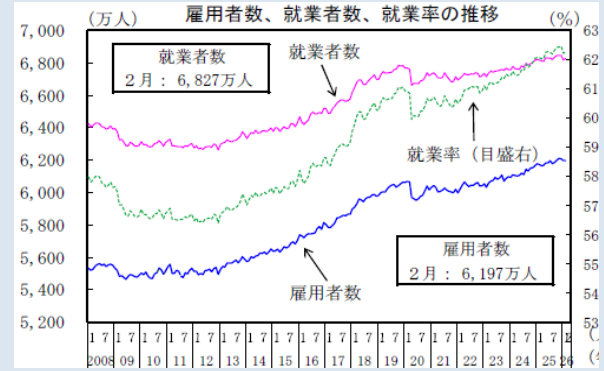
設備投資	(4月) 持ち直している。
	(3月) 緩やかに持ち直している。



住宅建設	(4月) 弱含んでいる。
	(3月) 弱含んでいる。



雇用情勢	(4月) 改善の動きがみられる。
	(3月) 改善の動きがみられる。



生産	(4月) 横ばいとなっている。	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移</p>																
	(3月) 横ばいとなっている。																	
輸出	(4月) おおむね横ばいとなっている。	<p>地域別輸出入数量指数</p> <p>①輸出</p> <table border="1"> <tr> <td>全体</td> <td>2月 ▲2.6%</td> <td>アジア</td> <td>2月 ▲9.5%</td> <td>米国</td> <td>2月 +5.7%</td> <td>EU</td> <td>2月 +0.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA +0.4%</td> <td></td> <td>3MA ▲1.1%</td> <td></td> <td>3MA ▲0.8%</td> <td></td> <td>3MA ▲1.0%</td> </tr> </table>	全体	2月 ▲2.6%	アジア	2月 ▲9.5%	米国	2月 +5.7%	EU	2月 +0.0%		3MA +0.4%		3MA ▲1.1%		3MA ▲0.8%		3MA ▲1.0%
	全体		2月 ▲2.6%	アジア	2月 ▲9.5%	米国	2月 +5.7%	EU	2月 +0.0%									
	3MA +0.4%		3MA ▲1.1%		3MA ▲0.8%		3MA ▲1.0%											
(3月) おおむね横ばいとなっている。																		
国内企業物価	(4月) 緩やかに上昇している	<p>企業物価の推移</p>																
	(3月) 緩やかに上昇している																	
消費者物価	(4月) <u>このところ緩やかに上昇している</u>	<p>消費者物価の推移 (連鎖基準、指数)</p>																
	(3月) このところ上昇テンポが緩やかになっている。																	
海外経済	<p>(4月) 世界の景気は、一部の地域において弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。ただし、中東情勢を始め世界経済の不透明感が高まっている。先行きについては、地域によってばらつきはあるものの、基本的には緩やかな持ち直しが続くことが期待されるが、中東情勢や金融資本市場の変動、米国の政策動向による影響等に留意する必要がある。</p> <p>(3月) 世界の景気は、一部の地域において弱さがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。ただし、中東情勢を始め世界経済の不透明感が高まっている。先行きについては、地域によってばらつきはあるものの、基本的には緩やかな持ち直しが続くことが期待されるが、中東情勢や金融資本市場の変動、米国の政策動向による影響等に留意する必要がある。</p>																	

[月例経済報告：内閣府](#)